

10 患者会・市民団体

当事者などによる悩みの相談窓口です。お気軽にお問い合わせください。

団体名	住所	電話・FAX	代表者名
1 生と死を考える福島人会	〒960-8251 福島市北沢又稲荷中川原1-15 (廣澤様方)	(TEL) 024-558-3593  (FAX) 024-558-3593  (公式HP) http://@seitosifuku.sakura.ne.jp	世話人代表 長沢 浩
2 患者会 「ピンクのリボン」	ご紹介しますので、県北保健福祉事務所 総務企画課(電話024-534-4104)まで ご連絡ください		
3 福島県喉頭摘出者福祉団体 「福声会」 (R3に調査した内容です)	〒963-3601 田村市滝根町菅谷字堂田326	(TEL) 090-2228-5101  (FAX) 0247-78-3255 (郡司 広美 様方)	会長 郡司 広美
4 がんを考える 「ひいらぎの会」	〒960-0211 福島市飯坂町湯野字禿道19-2	(Mail) makidon@msj.biglobe.ne.jp	代表世話人 鈴木 牧子
5 特定非営利活動法人 「がんピアネット ふくしま」	〒960-0211 福島市飯坂町湯野字禿道19-2	(Mail) office@cpn-fukushima.net  (公式HP) http://cpn-fukushima.net	理事長 鈴木 牧子

活動等について
<p>【活動内容】 ○記念講演 ○会報発行(年2回 9・3月) ○定例会</p> <p>【会の成り立ち】 桜の聖母短期大学公開講座「今を生きる」受講者有志と「生と死を考える会・東京」に参加してきた人たちが相集い、生と死について真剣に学び考える場として1994年4月1日に誕生した会です。</p> <p>【会の目指すもの】 この世に生をうけたものすべてにいつか必ず死が訪れます。死を見つめ考えることは、より豊かな生を築いていくことでもあります。</p> <p>会では、誰もが生と死について考え、学び、行動することができる場となり、死を通して生きる意義を考え、真に心の輪を繋ぎあうことのできる仲間を福島の地域につくることを目指しています。</p>
<p>【活動内容】 ○会報発行(年3~4回 不定期) ○総会 ○温泉ツアー(年1回) ○定期交流会(学習会・茶話会) ○リレーフォーライフへの参加 ○ほっとサロン(3ヶ月に1回)</p> <p>【会の成り立ち】 平成14年頃、県立医科大学附属病院乳腺外科病棟に入院していた患者達が「退院後もお互いに支え合い、親睦を深めていきましょう」と患者会が発足しました。</p> <p>【会の目指すもの】 治療をはじめとする心身のケアに役立つ情報や楽しく集える場を提供し、自らの将来が創造できる会を目指しています。患者は本意ながらも罹患した自分を受け入れなければなりません。「これから自分はどうかありたいのか、その為には何が出来るか・すべきか」を一緒に考え、お互いにサポートしあうことが患者会の役割であると考えます。</p>
<p>【活動内容】 ○発声訓練教室(福島市と郡山市の障がい者福祉センターを会場に、5~12月の間に各月1回開催) ○広報、組織の強化(医療機関と連携し、喉摘出者に対する説明や会の周知を図っています) ○会報発行 ○指導者養成:発声指導者研修会への派遣</p> <p>【会の成り立ち】 「福声会」とは、疾病等のために喉頭を摘出し、音声機能を喪失した県内に居住する人達で組織している身体障がい者団体です。福島県障がい者社会参加推進センターの指導を受けながら、会員の社会復帰と相互の交流を図ることを目的として、福島市・郡山市において定期的な発声訓練教室を開催しているほか、研修旅行会、宿泊訓練等を行っております。</p>
<p>【活動内容】 ○ひいらぎ通信(年6回発行 偶数月) ○ゆずりは茶話会(遺族の会) ○芋煮会&amp;ウォーク(毎年文化の日に開催) ○リレーフォーライフ福島への参加・協力</p> <p>【会の成り立ち】 ひいらぎの会は、1994年に設立され患者や家族が悩み・生き方を語り合い共感できる場として「がん」との共存を目指して発足されました。設立当初からの会員もたくさんいます。 がんを悔しがらず、怖がらず、愉しみながら克服の道を拓きましょう。</p>
<p>【活動内容】 ○福島県内を網羅する形で、「がんピアサロン」を開催(12か所) ○ピアサポーター養成講座(年1回) ○福島県がんシンポジウム開催主催(年1回) ○ピアサポーター研修会開催(年度末に毎年開催) ○がんアドボケートスピーカー検討委員会開催(年2~3回) ○がん患者応援食糧支援ボックス</p> <p>【会の成り立ちと今後の目標】 2011年東日本大震災を機に、がん患者が社会的弱者となり行き場所を失うことがないように、行政に申し出て、福島県全域に患者や家族が集い、体験者であるピアと顔を合わせて話ができる「サロン」を構築、2015年よりNPOがんピアネットふくしまとして、活動を広げている。現在、公開講座として「福島県がんシンポジウム」を毎年開催。学校でのがん教育にも、外部講師としてのあり方を学ぶ勉強会などを実施。がん患者への直接的支援を積極的に実施している。コロナ下では、食糧支援ボックスの送付など、がん患者や家族が社会から孤立しないように、全面から支援していきます。体験者が、ピアサポーターとして多く活躍しています。在宅緩和ケアに関しても各方面と連携して、患者・家族の為に取り組んでいます。</p>